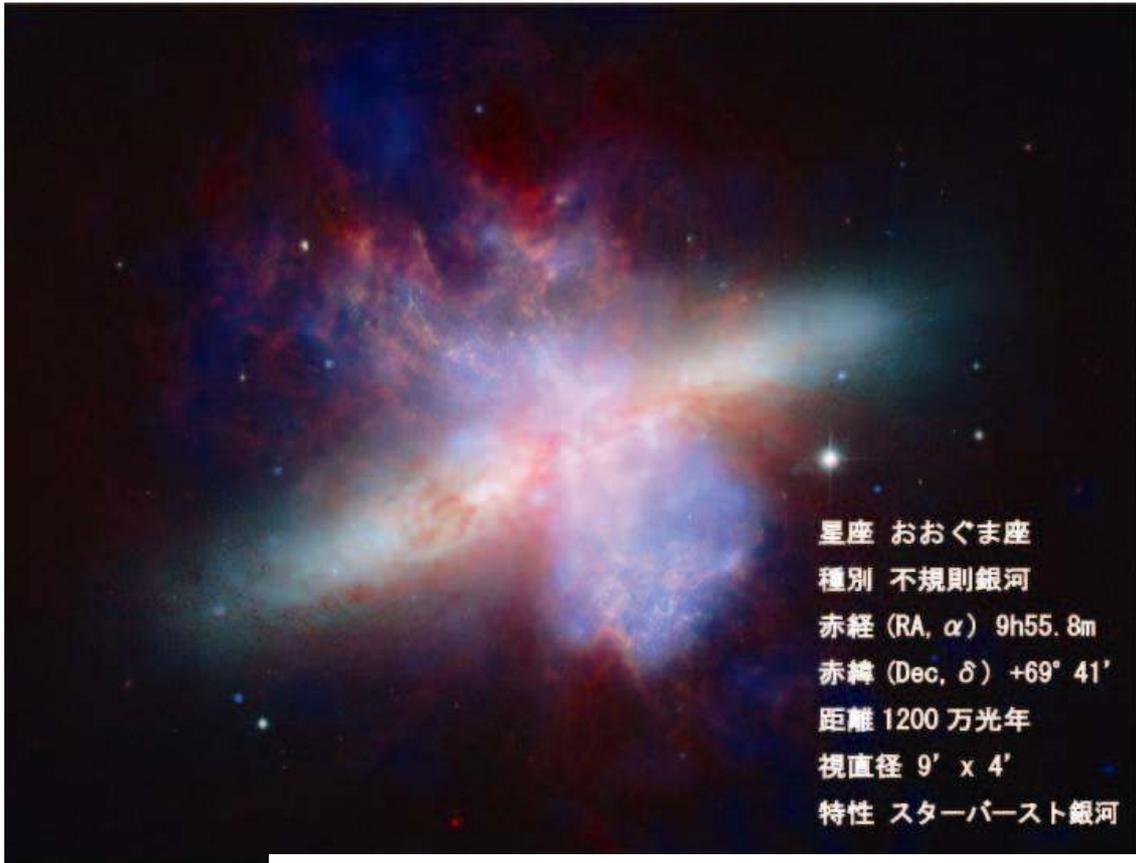


星をみせし...

2008. Autumn Vol.3



星座 おおぐま座
種別 不規則銀河
赤経 (RA, α) 9h55. 8m
赤緯 (Dec, δ) +69° 41'
距離 1200 万光年
視直径 9' x 4'
特性 スターバースト銀河

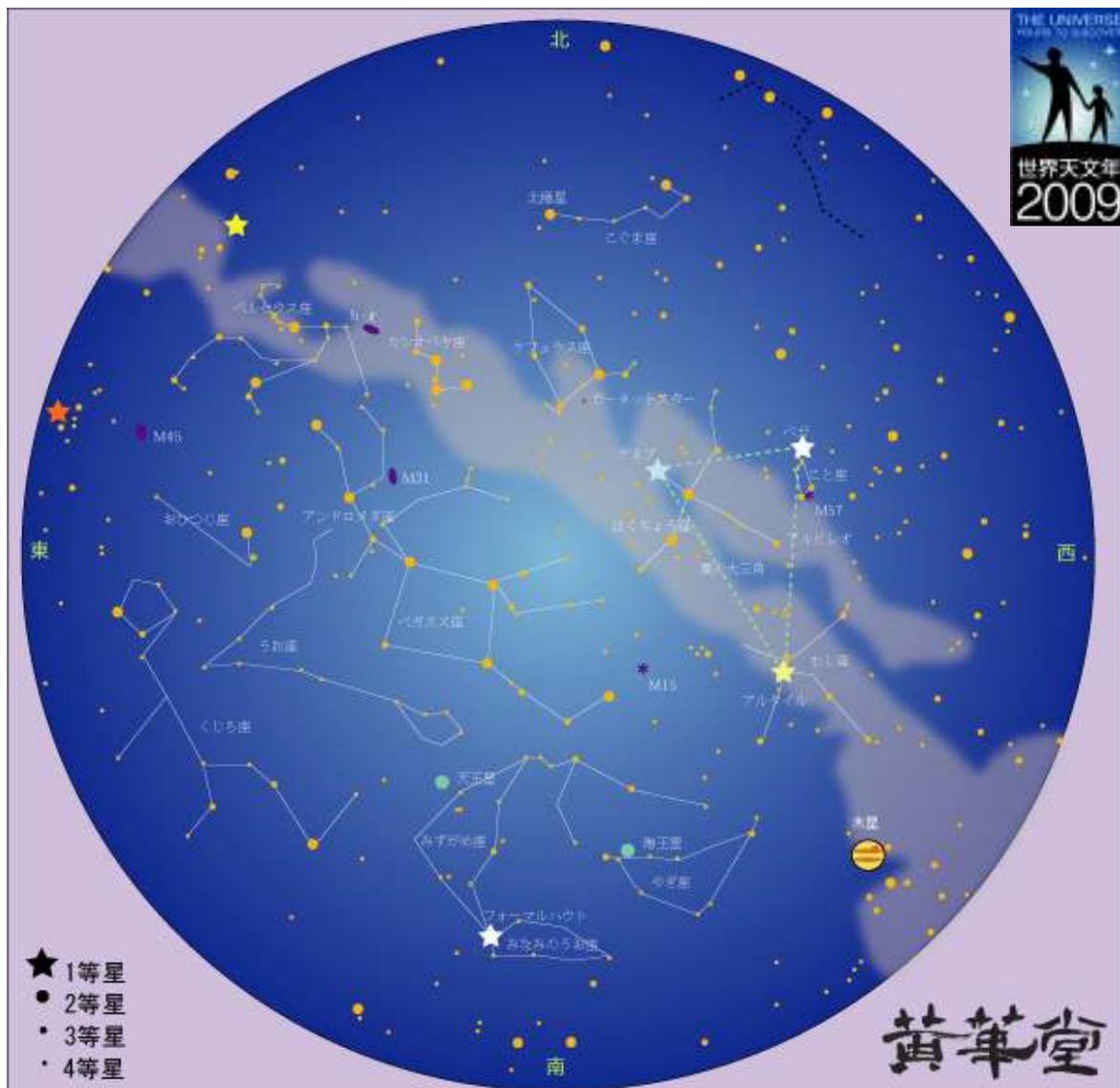
X-ray:NASA/CXC/JHU/D.Strickland; Optical:NASA/ESA/STScI/AURA/The Hubble Heritage Team; IR:NASA/JPL-Caltech/Univ. of AZ/C. Engelbracht

宇宙に暴風警報発令！！

銀河 M82。あなたは想像できますか??宇宙にもものすごい風が吹き荒れていることを。
♪この写真さ、緑色はなに～?→銀河を横から見たかたち。
♪じゃあ、もあ～っと見える赤や青は～?→これが銀河から吹き出している銀河風。
この速さたるや、なんと地上で暴風警報が出る数万倍! (>_<) 銀河で生まれ、そして死んでいった沢山の星たちの残骸は、こうやって宇宙空間の旅に出るんですね～。

それは、あなたのからだの中にも・・・。

見上げてごらん 「秋の星空と星座」



夏の間、南の空で目立っていたさそり座は南西の空に沈みかけ、秋の星座が顔を出します。南の空には、さそり座にかわって、やぎ座やいて座が輝くようになります。東の空からは、4つの星が長方形に並んだ秋の四辺形が昇ってきます。秋の四辺形は、ペガサス座の胴体部分の星並びです。星座を探す目印として、春、夏、冬には大三角がありますが、秋は大三角ではなく四辺形があります。

秋の夜空は、明るい星が少ないのですが、南西～天頂～北東の空にかけて天の川が見られます。街明かりの少ない場所へおでかけのさいは、ぜひ天の川も探してみてくださいね。

☆ペガサス座

頭の真上やや南よりに、手のひらぐらいの大きさで四角い星の並びがあります。地味な星々ですが、周りに明るい星が少ないため意外とよく目立ちます。ここが天馬ペガサスの胴体です。南西側に首から頭、北西側に2本の前足を伸ばし、翼を持った姿で描かれますが、実はこのペガサスには下半身がありません。ペガサスはあまりにも速く空を駆けるので、私達には前半分しか見えないそうです。

ペガサス座の北東にはアンドロメダ座、南東にはクジラ座、南には秋の星空の中でひときわ輝くみなみのうお座の1等星フォーマルハウトも見つけることができます。ペガサス座は、秋の星座の案内人になっているのです。

☆木星（太陽系第5惑星）

さそり座の東側、いて座のあたりで、金色をした明るい星が木星です。木星は、-2.7等級もの明るさで輝き、夜空の中で最も目立って見えます。

望遠鏡を向けてみると、表面のしま模様がみえます。また、ガリレオ・ガリレイが発見したことで「ガリレオ衛星」と呼ばれるようになった、4つの明るい衛星も見ることができます。衛星は、時間をかけて観察すると、位置が変化して見えますよ！

400文字のギリシャ神話「秋の星座」～アンドロメダ姫と化けクジラ～

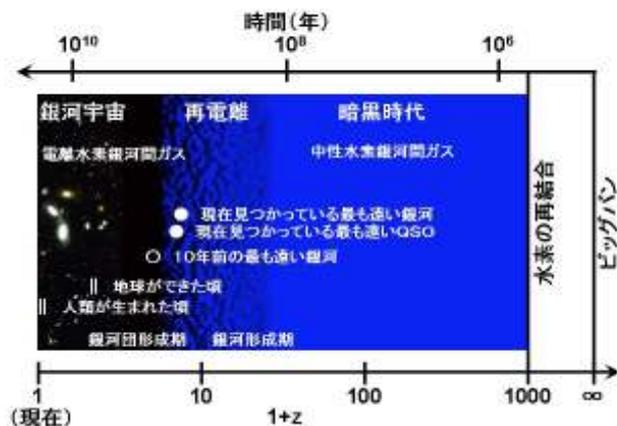
エチオピアの王女カシオペヤは、娘のアンドロメダ王女をととてもかわいがっており、ことあるごとに娘の自慢をしていました。ある時口をすべらせて「海の妖精よりも美しい」と言ってしまいました。怒った海の神ポセイドンは、みせしめとしてエチオピアの海岸に化けクジラを送り込み、人々を襲わせました。

困ったケフェウス王は、人々を救うために神に教えを請いました。それに対する神の答えは皮肉にも「アンドロメダ姫を、化けクジラの生け贄に差し出すこと」だったのです。岸壁に鎖でつながれた王女が、今まさに化けクジラの餌食とならんとしたそのとき、ペガサスに乗った勇者ペルセウスがさっそうと現れ、成敗したばかりのメドゥーサの首を化けクジラの眼前に差し出しました。化けクジラはメドゥーサの魔力で石となり、海深く沈んでいってしまいました。アンドロメダ姫とペルセウスは結婚し、エチオピアを治め、未永く幸せに暮らしたということです。

楽しい天文学入門 「宇宙の夜明けを探して」

ビッグバンから始まった宇宙は、今約137億歳です。最初は非常に熱かった宇宙も、膨張とともに次第に冷えていきました。

現在の宇宙には、恒星の集まりである銀河がたくさん光り輝いていますが、誕生後しばらくの間、宇宙には光る天体がひとつもない、暗黒の時代が続いていました。この「暗黒時代」はいつ頃終わり、恒星や銀河はいつ頃宇宙に現れたのでしょうか？



図：宇宙の年表

http://optik2.mtk.nao.ac.jp/~kashik/research_jp.htm

図は、宇宙の年表を大まかに表したものです。現在見つかった最も遠い銀河は、地球から約129億光年のかなたにありました。少なくとも宇宙が約8億歳の頃には、既に銀河がいたのです。しかし、この頃の宇宙は、既に「再電離」という状態にあることも分かりました。これは、さらに若い宇宙で、既に恒星や銀河が誕生していたことを意味しています。

宇宙で最初の恒星や銀河の誕生は、暗黒の宇宙に光が差す、「宇宙の夜明け」です。宇宙の夜明けを探して、より遠くを見るための大きな望遠鏡の計画や、新しい観測装置などの開発が進められています。 (小林 正和)

黄華堂からのお知らせ 「今後の活動予定」

秋は恒例の青少年のための科学の祭典京都大会へ出展します。いつもの工作に加えて今年は新ネタの「宇宙カレンダー」を作ってみようと思っています。さてどのような工作に仕上がるか乞うご期待！また、来年2009年は“国際天文年”です。黄華堂もいろいろ企画を行う予定です。

そろそろ準備を始めないと・・・。

11月5日：京大病院観望会 11月8、9日：青少年のための科学の祭典京都大会

“子どもたちに本物の星空を！”を合言葉に天体観望会や天文教室の実施やお手伝いをしている星空ボランティアグループ

Mail : info@oukado.org HP : <http://www.oukado.org/>

Mixi : http://mixi.jp/view_community.pl?id=2816441

黄華堂